超後支部報

20 第 묵

平成29年10月15日 公益社団法人日本山岳会越後支部 遠藤 家之進正和 新潟県新潟市南区鷲ノ木新田1049 TEL · FAX 025-362-5004 広報委員長 佐久間雅義



私の一枚

陽春の風景

7年程前の4月、高知山~二王子岳~ 三爼山まで縦走した時、黒石山付近の鹿 俣側の斜面で朝の陽光に輝く真っ白な斜 面に数本のブナのみが林立する不思議な 光景に思わずシャッターを切りました。 私の山行中でも深く印象に残る風景とし て今でも鮮明に残っています。

> 撮影 髙橋 正英

登山教室」の開催です。 に乗ってきました。 て担当してもらっています。ようやく軌道 第二に、糸魚川世界ジオパーク「子ども 年三回発行の支部報もメンバーを増強し まつ登山祭」が決まりました。 国民の祝日となり、その制定記念行事とし る「高頭祭」「新潟県登山祭」「弥彦山たい 昨年から八月十一日が「山の日」として 新体制になって半年が過ぎました。 今後、毎年七月二十五日に行われてい

もの。新しくなったホームページを是非覗 広く情報を発信し会員増につなげるという 雅義広報委員長を中心に、今までのホーム ページをリニューアルし、リアルタイムで から特に力を入れていることが二つありま 第一に広報活動を充実するため、佐久間

てもらうことがねらいです。 然を守り育てていくことの大切さに気付 しむ機会を提供し、 次世代を担う子どもたちに山の自然に親 自然の素晴らしさや自

でしたが、豪雨で道路が閉鎖され、今回は 題して一般と会員合同で上高地山岳研究所 旗揚げをしてくださる方を歓迎します。 中越地区や下越地区でもこのような事業の 子どもたちが参加してくれました。 十一日の山の日に第一回が開催され多くの (山研)を拠点に焼岳と徳本峠を登る予定 また、公募登山では、「上高地集会」と 八月一日には事前講習会も行われ、 今回は糸魚川地区が主でしたが、今後 八月

欠です。今後共よろしくお願いします。 越後支部活性化には、皆様の協力が不可 上高地散策に終わりました。次回に持ち越

五年にわたり、子どもたちの成長に合

副支部長 佐藤 越後支部活性化に向け

7

第六十四回新潟県登山祭に第六十回高頭祭及び

根津 洋子

と新潟県登山祭が、弥彦山で行われまでいますが、今年ほど天候を心配した年はした。私は今迄に数回参加させていただい頭祭と新潟県登山祭が、弥彦山で行われま頭祭と新潟県登山祭が、弥彦山で行われまりた。

げられ、玉串奉奠等厳かに滞りなく執り行 遠藤支部長のご挨拶通り、 発起人梶正彦様の感動のお話がありました。 われました。記念講演は全国山の日協議会 頭仁兵衛翁寿像碑前では出来ず、東屋の中 歩いて弥彦山大平園地へ到着。雨が強く高 た。私は山友二人と参加し、 は通行止めという悪条件の中での開催でし 心に深く残ることと思います。 六十回高頭祭は忘れられない行事として、 らず参加した四十余名の一人一人に、第 て列席の皆さんから感嘆の声があがりました。 﨑幸和氏作製の拓本の翁寿像が飾られてい での高頭祭でした。東屋には元支部長の山 警報発令、土砂崩れで弥彦山スカイライン そして山﨑氏の宮司に劣らない祝詞があ 前日から降り続く雨、そして当日は大雨 大雨にもかかわ 弥彦神社から



高頭祭終了後は雨もあがり、弥彦山頂御神廟に移動し第六十四回新潟県登山祭が執神廟に移動し第六十四回新潟県登山祭が執

夕刻たいまつに点火し、百五十名の岳人が弥彦神社へと向かう様は幻想的な光景です。そして花火が打ち上がる中、ボーイスカウトの鼓笛隊の先導で市中行進。高頭祭に始まり、感動を沢山いただいた一日でした。大雨の中、準備等大変ご苦労された越た。大雨の中、準備等大変ご苦労された越た。大雨の中、準備等大変ご苦労された越た。大雨の中、準備等大変ご苦労された越た。



上高地集会について

小山 一夫

七月一日~二日に集会委員会と事業委員会共同で「上高地集会」を企画し、実施しました。新潟は曇り空で出発しましたが、長野道の小布施で休憩中に山研の元川管理人より、上高地が豪雨で釜トンネルが閉鎖入より、上高地が豪雨で釜トンネルが閉鎖なることを期待し、長野道を進みましたがなることを期待し、長野道を進みましたがなることを期待し、長野道を進みましたが、

昼前に沢渡に到着。天候の回復を願い現地と連絡を取りながら待機しましたが、悪い情報しか無く、役員で相談しこれからの方針を検討しましたが、現地に残り明日に掛けに提案しましたが、現地に残り明日に掛けようという意見が多く現地で待機することようという意見が多く現地で待機することにしました。

泊まり先を桐生副支部長の友人より手配していただき野麦峠の奈川「ウッディ・もっく」を宿泊先に決めました。夕食時に山研の元川管理人より連絡が有りました。 翌日は焼岳の中の湯口よりの登山と上高地 数策のコース実施を確認して早朝より行動 しましたが、旧道の安房峠は封鎖中で上高 地散策に切り替え、全員から「山岳研究所」 を見ていただき上高地を楽しんでいただき を見ていただき上高地を楽しんでいただき

を元に再度上高地に挑戦したいと思ってい を見たことが無いと言っていました。 は常に天候で左右しますが、これらの経験 の少ない梓川が川一杯の濁流でした。山行 おみやげ屋の従業員がこんな静かな上高地 水量

を頂きました。 参加された木戸七七子様より山への想い

山に魅せられる

木戸 七七子

ラマに感動すると共に、その山々に登る人、 見る高山植物や雄大な北アルプスの大パノ 山を新聞で知り、信越トレイル、銀の道、 さな体の私にも行ける山を選び、単独やツ や文化、祈りの道であったことを深く知る しました。どの山も道も豊かな自然である 苗場山、小谷風吹大池コースに参加しまし アーにと参加して、山の素晴らしさに感動 下りて来る人々の姿に心をひかれて、私も ことが出来ました。 に登りたいと思うようになりました。小 十年程前に白馬八方池に行き、はじめて 経験の浅い息子は越後駒ケ岳に挑戦を 心を豊かにしてくれています。公募登 厳しい自然でもあり、人々の生活

天候が悪く内容が変更になりましたが、 策・焼岳登山に息子と共に参加しました。 今年は楽しみにしておりました上高地散 会

に指定されておることを知り、ヤナギ、シ ります いに行きました。とてもうれしく思ってお よく知ることが出来、後日レリーフにも会 の事も、遠藤俊一様から資料をいただき、 から聞いていました本家の高頭仁兵衛さん 来て思い出になりました。また、実家の母 た。はじめてウェストン碑を見ることが出 にも会い、鳥の声を聞きながら楽しみまし ミの深い針葉樹林と変化に富んでおり、 ラカバ等の樹林と一方では、シラビソ、モ ングで上高地そのものが丸ごと天然記念物 よい思い出になりました。上高地ウオーキ しみながら、 員の心づくしの夕食をゆっくりと会話を楽 お酒と料理を沢山いただき、

さいますようお祈り致します これからも山の素晴らしさを広めてくだ

回糸魚川世界ジオパーク 子ども登山教室」の報告

松井

潤次

第

する。 室」が開催された。私は運営スタッフの 認定地の糸魚川市に於いて「子ども登山 人として参加したので、以下に概要を報告 日」に、支部活動として世界ジオパーク 制定二年目をむかえた八月十一日の「山

り自然保護委員長の靍本会員を中心にス 本事業は支部公益事業として、今年度よ

できた。展望はないが、

昼食をと

確実に歩を進め山頂に立つことが

スと湿気の悪条件の中、子ども達

次いで戸倉山への登山開始。

は声を掛け合い励まし合いながら、

り空の中、山での歩き方などを講 をみせる生物多様性に理解を深め 豊かな自然環境の中に応じて変化 師から指導を受けながら会話も弾 準備運動を行い高学年と低学年の 続いてスタッフの紹介、 明がされた。また、運営スタッフも現地に 特徴および当日の準備、心構えについて説 学習会も行われ事業の目的、 ることができたようだ。 トンボなどの昆虫観察を通して 物を含めた草花や貴重なルリイ み、しろ池に到着。 じ取っていただきたい旨の挨拶 支部長より、一日山の自然に親 三十六名が集合して開会式。遠藤 保護者七名、 前日入りし、事前打ち合わせを行った。 先がけて八月一日には公募参加者への事前 んで素晴らしさ大切さを大いに感 しながらの自然観察会が実施され 一班に分かれて出発となった。 当日「しろ池の森」に子ども十五名、 講師の解説をもとに、外来植 運営スタッフ十四名の総勢 趣旨、

池を周回散策 、諸注意、 8₈11₈

8#11B

しろ池での集合写真(その後、2班に分かれて自然観察会を実施)

ばし、 り下山開始。角間池から大網峠まで足を延 も達の表情は輝いて見えた。 ら無事下山。それぞれの達成感からか子ど 「塩の道」の歴史に思いを馳せなが

山域の

タートし、準備が進められてきた。開催に

後の楽しみであり、 進められていく予定。子ども達の成長も今 本事業は五年計画で糸魚川周辺の山域 運営スタッフの皆さんご苦労様でした。 貴重な一日を体験でき

肉飾山は、 霧の中

正弘

○山行地:頸城・雨飾山(一、九六三m 小谷温泉登山口~雨飾山~梶山新湯 (雨飾山荘

期 日:平成二十九年八月二十七日

_日

晴れ時々曇り

○コースタイム:小谷温泉登山口▶9:30 ○メンバー:公募参加者十四名、スタッフ 下山するコース。登山者の大半は、 八名(留守本部二名含む)の総勢二十二名 00~13:30雨飾山4:15~17:10梶山新 越後支部恒例の公募登山は、小谷温泉口 11:10荒菅沢11:20~12:50笹平13: (雨飾山荘)(登り四時間、下り三時間) (雨飾山荘) 小谷

変化があり、静かな山行が楽しめた。 温泉口からのピストンだが、このコースは から雨飾山山頂を経て梶山新湯

が楽しいひと時 念。フォロー二名とここまでとした。

であった。 が見え越後らしさも味わえた静かなコース たが、皆元気に下山した。時折、 梯子がある。下山路も精神的には厳しかっ 尾根に出ると、木の根が滑りやすく要所に 滑りやすく気が抜けない。トラバースして 薬師尾根は、最初沢状の浮石多い登山道 海谷三山

平までこのコース最大の急登が待っている。 視界がきかない。遅いランチタイムだった 頂に着いたが、北アルプス方面はまったく ながら登るとつらさも忘れる。ようやく山 花も予想外に多く咲いていて、お喋りをし 下山も長いこともあり、残念ながら登頂断 分補給を行いながら何とか笹平まで到着。 途中、メンバーの一人の足がつり、薬と水 しい風が吹きあがってくると元気が出る。 違いながら一歩一歩登る。時折、谷から涼 雰囲気がある。河原で大休止。ここから笹 荒菅沢が見えた。フトン菱を背景に独特の をつけながら登るとパッと目の前が開けて 林へと日影が多くありがたい。木の根に気 駐車場は一杯。軽く体操をして山頂をめざす 山頂はガスの中から見え隠れしている。 登山開始時刻が遅いため、下山者とすれ 日差しは強いが、大海川の川原からブナ 小谷温泉登山口は、相変わらずの混雑で



吉田

理

平発一六時一〇分枝折峠経由小出駅前行の 復運行されている。平成二九年の運行期間 上り、下り各一本である。 前発六時三〇分枝折峠経由銀山平行。銀山 は七月二日~一○月一五日である。小出駅 枝折峠の手前標高約七八〇メートルの地点 尾」は湯之谷村 で路線バスの停留所が置かれている峠である。 路線バスは現在日曜・祝日のみ一日一往 「ダオ」は峠の方言。今回紹介する (現魚沼市) 国道三五二号

トラック道路があったとはとても想像出来 ナキ沢の工事現場に物資を補給するための いる』。現在この峠に立ってみてここから で、大勢の人々とともに昼夜活動している キ沢トンネル工事場は非常に大きなもの 見・守門」昭和三二年朋文堂刊には、次の であった。独標登高会著「魚沼三山・奥只 を主とした山仕事のための重要な産業道路 までは、黒又・大鳥方面でのゼンマイ採り 只見シルバーラインとして一般開放される 資材運搬道路として作られたトンネルが奥 約六〇年前に奥只見電源開発工事が始まり コンプレッサーの響きが谷間にこだまして ように工事現場の様子が記されている。 今でこそこの峠の利用者は殆どいないが、

に登りませんか」と川口章子さん(JAC 自然保護委員長)が提案され、真っ先に手 を挙げたのは深田森太郎さん(会員番号 一四四三七番・久弥氏ご子息)だった。計 画は八月二五日(月)に新幹線浦佐駅前の ビジネスホテル「オカベ」に前泊、駒の小 屋二泊の全行程三泊四日であった。深田さ んは東京中野の専門学校に勤務されていて 平日四日間の山行参加は難しく断念された。 やく登頂している。二回目は道に迷って帰 りは「駄尾」から大湯に下っている。

深田森太郎さんが参加されていたら「駄尾」で下車して昭和四二年一一月一九日の エピソードをお話ししたかった。この時の 同行者はⅠさん(会員番号二八四九番)と Mさん(会員番号一○四三六番・現在離 がさん(会員番号一○四三六番・現在離

顛末を私家版「山恋の詩」で述懐されている。 岳山行のにがい思い出がある」とこの日の 「私には長いあいだ内輪にしていた未丈ケ

「駄尾」から少し上った越後駒ケ岳がよく見える地点「長峰」に三島由紀夫の文学碑が建立されている。三島は昭和二九年一〇月に現場を取材旅行し、実際に越冬した社員から聞き取り調査をしている。「沈める滝」はこの取材をもとに工事技術者をある滝」はこの取材をもとに工事技術者をきん公とした小説である。文壇では高い評価を得て、「花の百名山」の著書もある田中澄江は「沈める滝」を読んで涙が出た、と感想を述べているが「記念碑の碑文」もと感想を述べているが「記念碑の碑文」も文学は難しい」の感想しか残らなかった。



越後支部報二十号

越後支部報二十号発刊おめでとうござい

信行

板で報告連絡等、そして編集後記、 コラム等の投稿、事業・行事報告、 支部幹部の言葉、私の一枚・写真と説明、 筆致で揮毫していただきました。構成は、 ました。題字を山﨑支部長の暖かみのある けていただき、創刊にこぎつけていただき 崎幸和元支部長の下で、 には会員の山行記録等、事務局連絡、 トや画、写真などを挟み仕上げられていま 創刊号は平成二十二年七月十日発刊。 加藤明文編集委員から鋭意ご努力を傾 高橋正英編集委員 イラス 山靴欄 掲示 Ш

ラエティーに富んだ支部報になるものと期勢のメンバーがおられる支部ですので、バりいただき、誠に有難うございました。大りにだき、誠に有難うございました。大人のよりにある。

特しています。」、成川隆顕山の日推進担当常務理事から「支部報の創刊おめでとうご常務理事から「支部報の創刊おめでとうございます。モットーは「やらない支部」品格と伝統の支部ともかねがね聞いておりました。越後の品格を保ち、受け継ぎながらい支部報発行とうけとめます。うれしいでで、二百余名の会員各位のつながりをさらにつよめ、大切にしていただければと思いにつよめ、大切にしていただければと思います。全国と足並みをそろえて…。私が担ます。全国と足並みをそろえて…。私が担ます。全国と足並みをそろえて…。私が担ます。一人の日」もよろしくお願いします。」、その他いろいろな支部から創刊祝福と激励をいただきました。

今まで編集の任に当たられた方々は、大 変なご苦労をされて原稿集めをしておられ たことは皆さんご承知のことですが、率先 して原稿を書き送ってくださる方が少ない のが現状だと伺っています。支部員各位か ら発憤していただき編集担当者を喜ばせて ほしいと激励を申し上げます。

回数、 ます。 として、 別号があってもいいのかも知れませんが くらいが適当だと感じています。 ますので、 今の支部会費徴収で足りなくなるかと思い 収の最大の理由と聞き及んでいます。発行 り食い込むことで、各支部では支部会費徴 経費については、支部報は支部経費をかな 発行ページ数が増えたりしますと、 注意してかかったほうがよいと考え 当時事務局を担当したものの視点 全国の各支部の支部報発行状況と 現在の様にA4版四頁から六頁 時には特

事 務 局 連 絡

海外登山講演会 (新潟県山岳協会七〇周年記念) に参加を!!

外登山講演会」を開催します。 して、日本山岳会越後支部も共催して「海 新潟県山岳協会創立七〇周年記念事業と

十三回の経験から〉」また、医学博士・国 講演されます。 高所順応レクチャー 際認定山岳医の橋本しおり氏が「ヒマラヤ 廣恒夫のヒマラヤ登山塾 日本山岳会副会長の重廣恒夫氏が「重 〈高山病対処法〉」を 〈ヒマラヤ登山

多くの皆さんの参加をお願いします。

●日時 平成二十九年十月二十八日(土)

午後一時~五時

●会場 新潟市万代市民会館

(六階多目的ホール)

●参加資料代 千円

詳しくは、チラシを参照ください。

支部会員動向

(二〇一七年六月~八月)

退会者

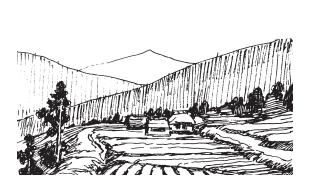
野口 ヒサ子 (一一三〇七) 矢尾板 奈々子 (一〇四一七) 長岡市 湯沢町

二 新入会員

廣井 博行 (一六二三二) 坂野 雅之 (一六二三八) 村上市 八月 柏崎市 八月

一九五名 支部会員総数 (八月二〇日現在)

Ξ



猿のお知らせ

一王子岳のお花畑にて 鈴木 勝利

食べるし、糞はするし、困ったものである。 だろうが、楽しみにしていた花のつぼみは 着いていたが、群れとの距離が近いと威嚇 十匹以上。この時は距離があったので落ち の下部が騒がしい。雪が解けて湿地となっ してくるので要注意だ。猿に悪気はないの たところに猿が群れていた。ざっと数えて めの花を眺めながら登って行くと、お花畑 今年初めての二王子岳であった。咲き初



お詫びと訂正

誤りがありました。読者の皆様ならびに関 を深くお詫び申し上げ、次の通り訂正いた 係者の皆様にご迷惑をおかけしましたこと 日本山岳会越後支部報第十九号に記載の

・二ページ二段目十六行目から三段目九行 目まで編集ミスで日本山岳会越後支部報 してください。 第十八号の記事が残存していたため削除

・三ページ一段目の後ろから九行目と同 段目後ろから一行目

【誤】小暮 → 【正】木暮

六ページ一段目の十九行目 【誤】斎藤 →【正】齋藤

【挿入】井 春文(新・南魚沼市)

六ページ二段目の七行目

六ページ二段目の九行目

【挿入】五十嵐 恵美子 (新・喜多方市)

六ページ二段目の後ろから四行目

【誤】長岡市 →【正】新潟市

六ページ三段目の九行目

《広報委員長:佐久間 雅義、副広報委員長:石山 政雄 【誤】平成二十七年 →【正】平成二十九年

編 集 後

れからも登り続けたいと思いました。 からです。自分も美しさと感動を求め、こ 中でシャッターを切っている様子が見えた 感動しました。氏が雪原に立ち止まり、夢 私の一枚 陽春の風景の説明文を読んで

(編集:鈴木 勝利)